



2020年5月13日

各位

会社名 岡藤ホールディングス株式会社  
 代表者名 取締役社長 小崎 隆 司  
 (コード番号：8705)  
 問合せ先  
 役職・氏名 取締役 増田 潤 治  
 電 話 03-5543-8705

## 2020年3月期通期の連結業績見通し及び特別損益の計上に関するお知らせ

2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)の個別業績において、特別利益及び特別損失を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

## 記

## 1. 2020年3月期の連結業績見込み及び業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前期実績 (2019年3月期) (A)	2,666	15	37	168
当期実績見込み (2020年3月期) (B)	2,850	△223	△197	89
増減額(B-A)	184	△238	△234	△79
増減率(%)	6.9	—	—	△46.8

## 2. 差異が生じた理由

当連結会計年度における商品市況は、金は米国の利下げや米中貿易摩擦の激化を背景に大きく上昇した後、9月以降は横ばいでの推移が続いていましたが、1月以降は新型コロナウイルスの発生により安全資産としての買いが入り急伸した後、現金化の動きにより急落するなど乱高下しました。原油は2月までは概ねレンジ内での推移が続いていましたが、3月に入りOPECプラスの協調減産協議が決裂したことや新型コロナウイルスによりエネルギー需要が減退するとの懸念から急落しました。これらの背景から、全国市場売買高は43,411千枚(前年同期比101.9%)となりました。

このような状況のなか、当社グループにおける商品取引関連事業の受取手数料は主力である貴金属市場で512百万円(前年同期比57.6%)にとどまったこと及びその他の市場も総じて低調だったことから631百万円(前年同期比50.1%)となりました。

しかしながら、くりっく関連事業の受取手数料は1,706百万円(前年同期比238.6%)と前連結会計年度に比べて大幅に増加いたしました。この結果、受取手数料の合計は2,474百万円(前年同期比118.8%)となりました。また、売買損益につきましては、有価証券関連事業の売買損益が35百万円の利益(前年同期比15.5%)にとどまったこともあり、合計で246百万円の利益(前年同期比54.1%)となりました。

この結果、営業収益は2,850百万円(前年同期比106.9%)となる見込みであります。また営業費用につきましては、2019年12月16日付「連結子会社に対する損害賠償請求の解決に関するお知らせ」にて公表した通り160百万円の和解金を営業費用に計上したこともあり3,073百万円(前年同期比115.9%)となる見込みであります。

これらにより、営業損失は223百万円となり、経常損失は197百万円を計上する見込みであります。

これに加えて、投資有価証券売却益320百万円を特別利益に計上したことなどから、親会社株主に帰属する四半期純利益は89百万円を計上する見込みであります。

3. 特別利益の計上

・ 債務免除益（個別）

2020年3月期において、当社の連結子会社である岡藤商事株式会社（以下、「岡藤商事」といいます。）からの未払金及び長期未払金に対する債務免除371百万円を債務免除益として計上いたします。

なお、この債務免除益が、連結業績に与える影響はございません。

4. 特別損失の計上

・ 関係会社株式評価損（個別）

2020年3月期において、上記債務免除などによる岡藤商事の財政状態等を勘案した結果、関係会社株式評価損として2,634百万円を計上いたします。

なお、この関係会社株式評価損が、連結業績に与える影響はございません。

以 上